

B 72 衣服と環境温度にかかわる快適性（第2報） 着用衣服に対する快適因子
に寄与する要因

大阪教育大 ○奥窪朝子 山口大医・公衛 酒井恒美

目的 前報において明らかにした着用衣服に対する快適因子，すなわちファッション性因子，活動性因子，温熱性因子および学校にふさわしさの因子それぞれについて，人による要求度の違いはどのような要因に支配されているかを追究した。さらに，各快適因子に対する要求度と着衣量との関係を検討した。

方法 対象者および解析に供した有効回答数は，前報におけると同様である。多変量解析には，数量化理論第1類を適用した。着用衣服に対する快適因子に寄与を持つと推定して設定した要因は，①季節，②制服校か自由服装校か，③性，④薄着に対する意識，⑤肥満度，⑥健康状態，⑦かぜをひいた回数，⑧スポーツは好きか否か，などである。

結果 1)着用衣服に対する快適因子のそれぞれに大きな寄与を持つ要因は，数量化理論による解析の結果，取り上げたアイテムのうちの次のようなものであった。①ファッション性因子へは②，④，⑧；②活動性因子へは②，④，⑥，⑧，⑨；③温熱性因子へは②，③，④，⑥，⑧；④学校にふさわしさの因子へは②，③。2)着衣量への寄与の大きい快適因子は，各因子得点に基づいて数量化理論による解析を行った結果，活動性因子と温熱性因子とであった。すなわち，他の因子得点を一定とした上で，着衣量は①活動性因子の得点が高いほど小さく，②温熱性因子の得点が高いほど大きいことが認められた。なお，着衣量に寄与する要因の詳細な解析は，別報にゆずる。

以上の成績は，温熱的快適性の検討に当たって着衣に対する快適因子についての考慮が必要であることを示すものといえよう。